

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0890200363		
法人名	株式会社 湘南みどり園		
事業所名	グループホーム花樹ひたち ユニット名 (わくわくBユニット)		
所在地	茨城県日立市日高町2-7-10		
自己評価作成日	令和 4 年 8 月 15 日	評価結果市町村受理日	令和4年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0890200363-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和4年10月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設や職員の都合にあわせるのではなく、利用者の思いに寄り添い、一人一人のペースに合わせ、『ゆつたりの心』で、心のもった介護をすることを目指している。職員一人一人が、認知症の理解とケアの仕方を深く学び、実践していけるよう、レベルアップを図っている。利用者の出来る事に目を向けて、その力を発揮してもらう事で、個人の自立を支援していく。日々の日常の中で、より刺激となり、楽しみとなるようなイベントを企画し利用者楽しんで頂いている。日々、手作りの家庭料理を作り、満足して頂けるような食生活を送って頂いている。コロナウイルス感染拡大により家族と以前よりも面会が出来なくなってきているが家族が安心出来るよう、電話などで生活状況などを説明し連携を図っている。利用者・家族様には、よりストレスのかかる状況となっているが今後も出来る限りのケアをさせて

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は街中に位置し「学校法人日本ガーデンデザイン専門学校」連携施設で珍しい花や樹木が至る所に植えられ、畑では自給自足できるだけの作物が専門職員によって管理されている。利用者は作物を収穫したり四季折々に咲く花の下でお茶を飲める等の楽しみも多い。毎月実施しているフラワーアレンジメントの他庭の花を居室も含めて至る所に飾っている。コロナ禍で外出が難しい中、感染予防対策を実施してお弁当持参で秋祭りに出かけたり、きららの里で食事をする他、利用者の要望に沿いドライブに出かける等利用者が外出できるよう工夫した支援を実践している。職員の作る食事は品数も多く彩にも配慮され美味しいと好評である。管理者と職員は利用者との触れ合いを大切にして一人ひとりに寄り添い利用者の趣味や特技を生かしながらゆつたりと過ごせる様に、理念である「ゆつたりのこころ」に沿い支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所や各ユニットに掲示し、日々目で見えて実践につなげている。また新人教育において、事業所の理念の大切さを説明し、業務に生かして頂いている。	利用者それぞれのペースで焦らずゆっくりと今までの生活と同じに過ごせるよう職員は笑顔で「ゆっくりのこころ」で理念に基づいた支援をしている。	グループホームが地域密着型サービス事業所で有ることをふまえ理念に掲げ実践につなげる事を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏まつり、防災訓練等ご近所の方にお声がけをし共に実施、又近隣ボランティア、保育園児等と交流しているが現在はコロナ感染予防の為中止している。	コロナ禍前は、夏祭り等で近隣保育園児やボランティアが来訪し交流していた。コロナ終息後は再開予定である。近隣住民からコロケの差し入れがあった。敬老会に近隣の保育園児から写真やメッセージを貼った模造紙が届けられ、おやつを渡して交流したり、お花の先生が来訪し週1回利用者が花のアレンジを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議(書面による)などで、認知症の方の支援方法に関する実例報告をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所、民生委員、他の施設の方をお招きし色々な意見を聞き参考にしているが、現在はコロナ感染予防の為書面での意見もらいサービスの向上に活かしている。	コロナ禍の為資料を送付し意見を聞いている。外出先の情報などを得て参考にしたり、メンバー全員から状況報告や事業所の取り組み、行事に対しての感想などが寄せられ、職員も介助の様子や心境を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などの資料文書を送付し実情やサービスの取り組みを積極的に伝え意見などをもらい協力関係を築いている。	何でも話せる関係を築いていて、提出書類で分からない事など(原発事故時のバスについての資料作成など)を相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を実施し理解を深め、利用者の生命の安全を脅かす事態以外は身体拘束はして いない。実施時は家族に説明を十分にし、同意書に署名を頂いている。	身体拘束排除のための委員会を設置しているが、指針を作成するまでには至っていない。管理者が随時気が付いた点などを教育しているが、研修会を実施するまでには至っていない。	指針を作成して、身体拘束をしないケアのための研修会を実施することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を実施し理解を深め、虐待防止に努めている。職員間で声掛けをきちんとし、利用者に心身的に変化がある場合話し合いをし原因を明確にする。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後制度の研修を実施し理解してもらっている。当事業者内でも活用されている方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、来所して頂き一語一句十分な説明を行い、理解納得を頂いている。改定時は、文章にし書面にて署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族が、気軽に意見、要望等を言える雰囲気作りをしている。意見、要望に対し迅速に対応している。	家族等が利用者の為に届け物を持参する機会が多い為来訪した時や電話の際に話を聞くようにしている。アプリを通じて情報交換を実施している家族等もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	話しやすい雰囲気づくりをしている。個別の面談を行う事もある。全体会議等で出た意見など、検討し運営に反映している。	職員間はコミュニケーションは良く何でも言い合える環境になっている。職員から出た意見により事業所周辺を車いすでも散歩をしながら花や作物を見られるように整備した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見箱を設置している。コロナ感染予防の為頻繁には来れない状況になっているが、日々連絡を取り合い連携に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修は勿論の事、外部のWEB研修も行っている。その研修を反映させ内部研修でも使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に他の事業所のグループホームの職員にも毎回参加頂いていたが、コロナ感染予防の為、今は中止している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初のアセスメントをきちんとし、本人へ意向を確認している。認知症の方でもあるので家族にも十分にお話を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族へのお声掛けに努め不安な事など、話しやすい環境づくりに努め要望などがある時は、迅速にサービス担当者会議等を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と十分に話をし、心身状況を含めどの様に暮らしたいか見極め支援に繋げる様に努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として時に相談をしたり敬意を払って共に過ごしている。本人が出来ること等は声掛けして手伝って頂ける様に働き掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も利用者を支えていくチームのメンバーとして考えている。家族には日常生活状況を細かく話す様に心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染防止の為遠慮して頂いている。	入居時のアセスメントからフェイスシートを作成して以前からのお稽古仲間や友人、近所の知り合いを把握し、関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション・洗濯たたみ・食器拭き等協力しながら全員で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は実際に携わっている方はいないが、必要があればサービス終了後でも相談支援など行っていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの訴え時は迅速にきちんとし対応し職員側からも声掛けし対応している。	日常の会話などで思いや意向を把握し、日々の活動も無理強いすることなく利用者本位の支援をしている。意思表示の難しい利用者は表情等で判断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に十分なアセスメントを実施し、他職員へも情報を提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人に合わせ無理をしない様ゆっくり過ごして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、本人・家族・職員・主治医等と話し合い、毎月のモニタリングを通して介護計画を作成している。	家族等や利用者の意向を基に、関係者が話し合い計画を作成している。毎月モニタリングを行い基本1年で見直しを行っている。介護計画は具体的なサービス内容が記載され、職員や家族等が見てわかりやすいものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝・夕の申し送り、連絡帳記入内容・iPadの特記事項をもとに見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の変化に応じ迅速かつ柔軟な支援を行い円滑に生活出来る様なケアを心掛け一人一人のニーズに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方を呼び歌・楽器演奏・踊り等を楽しみにしていたが、コロナ感染予防の為現在は実施していないが、通販カタログから商品を選び購入している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれ希望している病院に受診して頂いている。訪問診療を受けている利用者様は、月2回定期的に往診して頂いている。本人の状態は、一人一人のバイタル表や職員・家族より主治医に伝えている。	契約時に希望するかかりつけ医への受診が可能なことを説明している。看護師資格をもつ職員が週3回出勤して健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の変化等ある場合報告をし共に協力しながら心身向上に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院、退院時はナース、地域連携室等と情報交換をしスムーズな入退院が出来る様に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点での延命治療に関する意志の確認を書面で頂いており、施設としての方針も説明している。	看取りに関する指針を作成し、同意書と緊急時の事前確認書を得ている。職員は看護師を中心として年1回内部研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作り各ユニットに置くようにしている。全体会議での研修の実施。外部研修などにも参加し、職員で共有し活かせる様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的にレクリエーションに避難訓練を取り入れたり、全体会議でも話し合いの場を設けている。	夜間想定の実践を行うまでに至っていない。訓練後は反省会を行い課題について話し合っているが次回の訓練に活かすまでに至っていない。災害に備えた備蓄品を保管している。	夜間想定の実践は年1回実施し、反省会で出た意見は次回の訓練に活かす事と備蓄品として、お米の最低ロットを決め災害時に備える事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	花樹の理念でもある利用者に合わせて一人一人の心を知り心のこもった介護を念頭に置いて日々対応している。	トイレや入浴の誘導時には利用者それぞれに合わせたケアを行っている。人権尊重や守秘義務、言葉かけ等については職員同士で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本一日のスケジュールはあるが、ご本人より訴えがあった場合は尊重させて頂いて無理強いや絶対にはしない様に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴・レクリエーション・お昼寝等、声掛けをするが無理強いはず一人一人のペースで生活して頂く様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は基本ご本人に任せているが、着過ぎや薄着などには声掛けをしながら選んで頂いている。洗顔フォームや化粧水等はそれぞれの物を使用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	塩分に気を付け見た目にも工夫して美味しく楽しく召し上がって頂ける様に工夫している。片付けは毎回利用者と一緒にしている。	利用者はそれぞれに食器拭きや片付けを手伝ったり、おはぎやホットケーキ、おやき等のおやつをみんなで手作りしている。季節ごとの行事食を提供したり、外食(コロナ禍前)をするなど食事が楽しみとなる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の状態に合わせ食事量を調整し健康に心掛けている。水分が十分でない方は一日の水分量を管理させて頂いて調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし自立の方は、ご自身で頂いている。介助が必要な方はサポートしながら行っている。問題がある場合は、家族の同意をもとに歯科受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員トイレでの排泄を心掛けている。介助が必要な方も排泄パターンを把握し定期的に誘導している。立位が不安定な方は職員二人介助にてトイレでの排泄を行っている。	利用者の排泄パターンを把握し誘導して、トイレでの排泄に努めている。夜間でもできるだけトイレでの排泄を支援しておむつをしない支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を作成し管理している。毎朝、ヤクルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日はそれぞれ決まっているが無理強いはず、体調や気分等も考慮して楽しく入浴出来る様に工夫している。職員配置の都合上夜間の入浴は行っていない。	しょうぶ湯やゆず湯で季節感を出している。浴室の入り口に「湯」と書かれた大きな暖簾を掲げ雰囲気を出している。個人で好みのシャンプーを利用したり、2番目の入浴を希望する利用者の要望を受け入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調などを考慮して適度な休息を取って頂いている。その際昼夜逆転しない様に気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基礎疾患から知り服薬状況、副作用も理解している。不安な時は薬剤師と連絡を取合い解決している。下剤に関しては服用しない日もある為、チェック表を用いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの意見を尊重しお手伝いをして頂いたり最近ではテイクアウトのお寿司を楽しむ事が多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナ感染拡大の為難しい状況だが、ドライブや貸し切りでの外食などで気分転換をしてもらい楽しんでもらえる様に支援している。	事業所の花壇も畑も広く多数の種類を見ながら車いすでも散歩が出来ようになっている。駅前の公園まで散歩に出かけている。感染予防に留意して、きららの里や桜など季節の花見、イルミネーションを見に行くなどは現在も実施している。利用者の希望に沿ったドライブに頻繁に出かけ車窓から景色を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はいない。お金が必要な場合があれば、説明し立替えにて対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望があれば、電話をして頂いたり、手紙を趣味としている方もおられ定期的にやり取りをされてる方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除はもちろん温度・湿度等もきちんと管理している。玄関・リビング・居室に常に花を飾り四季に合わせ絵画を変えている。	事業所全体が清潔に保たれ温度・湿度が管理され、至る所に季節の花が飾られ快適に過ごせるようになっている。各ユニットの居間は種類の野菜が作られている中庭に面していて野菜の成長も楽しみ日当たりも良い。居間兼食堂は広く寛げるソファやマッサージチェアが配置され、本箱にも多数の本があり家庭的である。壁面には日めくりのカレンダーや時計、利用者の塗り絵が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方との席を近くに作る等配慮している。皆で一緒に歌ったり仲良くお話をしたり楽しく過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた家具などを持って来て頂き自由に配置して頂いている。写真・ぬいぐるみ・等を置いている方が多く、危険なもの以外は制限していない。	冬は空気清浄機、加湿器を置いている。入口に表札があり、入口ドアにある素通しの窓に布を貼って夜の廊下の光が室内に入らないよう工夫している。管理者は危険物以外使い慣れた物を持ち込んでもらうように説明している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	無駄な物は置かず動線を確認し移動しやすい様にしている。また、全ての場所に標識表示している。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム花樹ひたち

作成日 令和 4 年 11 月 21 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	企業としての理念を花樹ひたちでも業務に活かしていたが、独自の理念を作る事で、ステップアップにつなげる。	花樹ひたちとしての独自の年間理念を作る。	各自考えてもらい、全体会議できめる。	2ヶ月
2	5	委員会を設置しているが、指針を作成するまでには至っていない。管理者が随時気が付いた時点で教育しているが、研修会をするまで至っていない。	指針を早急に作成し研修会をする。	月1回は、研修会を実施する。	3ヶ月
3	13	定期的にレクリエーションで避難訓練を取り入れているが、夜間想定 of 訓練は行えていなかった。	訓練の反省会を行い、次回の訓練に活かす様にする。	2回に1回は、夜間想定 of 訓練を取り入れ、その都度反省会を開き、次回の訓練に生かす。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。